(六) 講習終了者住所氏名

安藝郡奈半利町加領郷	中村辨吉
高岡郡宇佐町宇佐	山岡馬藏
仝　郡仝　町福島	井上喜代平
仝　郡仝　町井ノ尻	井本與吉
幡多郡清松村中濱	池清治
仝　郡仝　村仝	竹林竹太郎
仝　郡月灘村尾浦	淺井喜代治
仝　郡仝　村仝	門田鶴吉

二、發動機々關科

(一) 講習生出願者　三十三名

内　入會ヲ許可シタル者　二十五名

内　病氣其他事故ニヨリ入會ヲ取消シタル者　二名

講習受講者　二十三名

内　病氣ノ爲中途退學者　五名

(二) 講習受講修業証書受領者　十八名

講習出席歩合

講習無欠席者　七名

一日欠席者　二名

二日　仝　二名

三日　仝　二名

五日　仝　一名

六日　仝　三名

七日　仝　一名

十五日仝　一名

講習終了者　十八名

(三) 講習期間　自九月五日至九月三十日　二十六日間

(四) 講習科目分擔

發動機々關學	大日本水産會講師　小茂鳥豐三郎
漁船々員心得	本塲々長　河村兵三
海事法規概要	仝　技手　久野好
英語	仝　仝
數學	仝　碓井秋雄

機關學實習　　高鵬丸機關長　小松傳太郎

（五）講習學科行程

講習時間總計　百三十時間

内

機關學　八十八時間

漁船々員心得　二時間

海事法規概要　六時間

英語　八時間

數學　十八時間

機關學實習　八時間

（六）講習終了者住所氏名

安藝郡室戸町浮津二八五　橋本寅松

仝　郡津呂村五〇四八　坂井友義

仝　郡室戸町元新村　寺尾富藏

吾川郡浦戸村七一八　土岐久吉

高岡郡日下村本郷七一　矢野源治

仝　郡吾桑村國見　青木茂吉

仝　郡多郷村久通四六　山崎馬吉

仝　郡宇佐町宇佐七八五　横山德松

仝　郡須崎町原町一三七　橋本久馬

仝　郡仝　町濱町一〇〇二　島本稔明

仝　郡仝　町仝　一二二　沖吉正男

幡多郡白田川村伊田一九六　川崎彌次郎

仝　郡下田村下田一五九三　山崎作吉

仝　郡仝　村仝　三五　濱崎駒吉

仝　郡上灘村窪津三九五　山下和太一

仝　郡清松村中濱　田川瀧吉

仝　郡下川口村貝ノ川一一四一　岡林鹿次

愛媛縣温泉郡上川村松瀬川　山本權七

四、結果　本講習會ニ於テハ優良ナル漁船々員トシテ必要欠グ可カラザル科目ヲ修業セシメ且ツ講習終了後本塲ニ於テ大阪遞信局海事部ノ執行ニカカル船舶職員臨時試驗施行ノ筈ナリシモ本年度講習會ハ漁期其他事故ノ都合ニテ受驗者極メテ僅少ナリシ爲臨時試驗ヲ施行セザルノ止ヲ得ナキニ至レリ依テ本講習終了者ニシテ受驗希望者ハ明年度講習終了者ト合併シ受驗セシムルコトトセリ

第九章　傳書鳩利用試驗

一、趣旨　漁況通信ノ迅速ヲ圖ルハ水産經濟上最モ重要ナルモノニシテ漁村相互間ニ於ケル漁況通信、漁村ト漁船ト

ノ聯絡通信ヲ完全ニ且ツ敏速ナラシムルト共ニ之ガ一般利用ヲ奬勵スル目的ヲ以テ本塲ニテハ大正八年度ヨリ本事業ヲ繼續試驗セリ

二、方法

本塲ニテ現在マデ飼育シ來リシ鳩ハ大正九年二月四日高知市八軒町傳書鳩競翔研究所野村定次郎ヨリ購入セシモノニシテ本塲内煙製室ヲ臨機鳩舍ニ當テ飼育方法モ朝舍窓ヲ開放シ夕閉窓スル如ク極メテ運動ヲ自由ニシ飼料ニハ大豆、小豆及ビ玄米ヲ與ヘタ〻而シテ本年度ニ於テハ飼育方法ヲ改メ六月三日ヨリ七月二十七日マデ五十五日間鳩ヲ舍内ニ幽閉シ鳩ヲ鳩舍ニ馴レシムルト同時ニ飼育者トノ和合ヲ計ラシメ飼料モ一日三回定刻ニ與ヘ一回一羽ニツキ白豌豆一、五一匁、玉蜀黍〇、八匁、玄米〇、八三匁、小豆〇、四二匁ト定メタリ、其後鳩馴致セルヲ以テ七月二十七日初メテ鳩ヲ舍外ニ出シ之ヨリハ毎日午前八時三十分午後〇時半午後三時三十分ヨリ各々十分間ヅツ運動セシメ後飼料ヲ與フルコトトナセリ、而シテ訓練ノ初期ニ於テハ舍外ニ出レバ直チニ本塲本館屋上ニ止リ後上空ヲ二回旋飛シ歸舍セシガ訓練ノ回數重ナルト共ニ舍外ニ飛出スレバ即時ニ鳩舍ヲ中心トシ上空ヲ三回乃至四回旋飛シ歸舍スルニ至レリ其後本塲ヲ中心トシ短距離訓練ヲ數回ニ亘リ試驗セシニ何レセ良好ナル結果ヲ擧ゲタルヲ以テ更ニ海上ト陸トノ通信ヲ試ミル目的ニ依リ漁船出動ノ都度船内ニ積載シ飛翔セシメタリ

三、結果

本塲附近ニハ家鳩ト傳書鳩トノ混種著シク增加シ、從來ノ飼育方法余リニ放棄的ナリシ爲現在本塲鳩舍ニ收容中ノ數ハ十尾雛鳩二羽ナルモ何レモ純粹ナル種類ナク性極メテ恐怖シ易ク馴致セシムルコト困難ナリ而シテ大正十一年九月一日訓練試驗ニテ行衛不明トナレルA號ハ純種ニシテ極メテ成績佳良ナリシモ該號ヲ失ヒテ以後馴致セシムル事一層困難トナレリ依ツテ明年度ニ於テハ軍用鳩ノ移管轉換ヲ乞ヒ鳩ノ漁業上ニ於ケル通信効果ヲ一層顯著ナラシメン事ヲ期ス

四、傳書鳩飼育日誌

月日	天候	記事
七月十八日	晴	卵一箇ヲ產ム
同月十九日	曇	卵一箇孵化ス
同月二十日	晴	一卵孵化ス
同月廿五日	雨	七月十九日孵化セシ雛鳩ニ足環ヲ付ス
同月廿七日	晴	本日初メテ鳩ヲ舍外ニ出ス、六月三日ヨリ五十五日間舍内ニ閉込ム
同月廿八日	晴	本日ヨリ一日三回運動セシム
同月三十日	晴	產卵ヨリ十八日經過セラル本日一卵孵化ス
八月五日	晴	A號及E號ノ短距離通信試驗ヲ爲ス
同月十六日	雨、晴	七月十九日及同月二十日ニ孵化セル雛鳩舍内ヲ飛翔シ且ツ餌ヲ攝取スルヲ認ム
同月廿一日	晴	B號產卵ス
九月一日	晴	A、E號及他一羽合計三羽漁船高鵬丸ニ積込ミ海陸通信試驗ヲナス
大正十二年二月十八日	晴	B號他一羽合計二羽ヲ以テ高岡郡多郷村双子二號漁塲ト本塲間ノ通信ヲナサシムル爲メ全漁塲經營者ニ貸與ス
二月廿三日	晴	孵化後七日ノ雛鳩ニ足環(高水1)ヲ付ス
三月三日	晴	二月十八日貸與セシ鳩一羽歸舍ス
同月六日	晴	高鵬丸海洋觀測出港ノ際B、E番外三羽積込ミ訓練ヲ爲スB、E及番外何レモ歸舍ス

同月十日　晴　高鵬丸高知ヘ廻航ノ際日、E番外三羽積載二羽即日歸舍ス

同月十二日　晴　右ノ中一羽午後四時宇佐ニテ捕獲ス

五、大正十一年度傳書鳩訓練日誌

月日	天候	鳩名	放鳩位置	飛翔距離	發信時刻	到着時刻	飛翔時間	摘要
大正十一年八月五日	晴	A號 E號	須崎西方新莊川橋	二十町	午前八時五十二分	午前八時五十五分	三分	
九月一日	晴	A號 E番外	須崎南十浬	十浬	午後三時〇分	E號九月三日午後一時		A號、番外歸舍セズ
大正十二年二月十八日	晴	B號 番外	須崎南々東三浬双子二號漁場	三浬				B號ハ飛翔セズ番外ハ午後二時野見ニ認ム後三月三日歸舍ス
三月六日	晴	B號 E號 番外	大矢井賀漁場須崎南五浬同司二浬半	九浬五浬二浬半	午後二時十分午後一時十分午後〇時半分	午後五時午後四時半分午後四時半分		B、E共ニ報告筒ヲ失フ
三月十日	晴	B號 E號 番外	上神崎正南下神崎正南神鳴正南	七浬五浬三浬半	午後二時四十分	宇佐ニ迷着ス午後三時半午後三時半		E及番外ハ即日歸舍スB十二日午後四時宇佐ニテ捕獲ス

第一章　有要海藻繁殖指導

一、趣旨　本縣沿岸中有要海藻ノ適地乏シカラズト雖モ未ダ其ノ利用完カラズ石花菜、海灌、荒布等其ノ繁殖並ニ移殖ノ方法ヲ講ジ以テ天然資源ノ開發ニ勉メ漁村永久ノ福利ヲ增進セントス

二、指導ノ方法　豫メ沿岸各郡役所ヲ通ジ各漁業組合ニ有用海藻養殖法施行時期ヲ通告シ本場員ハ其ノ希望組合ニ出張シ實地指導ヲナス右ノ主旨方法ニヨリ大正十一年度ニ於テ石花菜及海灌ニツキ次ノ如キ指導ヲ行ヘリ

養殖法ハ主トシテ磯掃除法ニシテ磯掃除器ヲ使用シテ掃除ノ方法及程度等ヲ實地ニ指導セリ

三、指導ノ月日及指導箇所

	年月日	場所
I 石花菜	大正十一年七月二十四日—二十七日	安藝郡甲ノ浦村葛嶋
	大正十一年七月二十八日—三十日	同　佐喜濱村都呂
	大正十一年八月一日—四日	同　津呂村高岡
	大正十一年八月二十一日	高岡郡上ノ加江村
	大正十一年八月三十日	幡多郡奥内村
II 海灌		

大正十一年四月十三日　長岡郡長岡村
大正十一年四十五日　安藝郡津呂村
大正十一年四月二十六日　幡多郡清松村
大正十二年三月二十八日　高岡郡久禮町

四、成績　本蓄殖方法ノ有効ナル事實ヲ知悉スルモノ漸ク多キヲ加ヘ其ノ蓄殖法施行時期ニ至レバ各漁業組合ハ競ヒ實地指導ヲ受ケム事ヲ申請スルニ至レリ

第二章　陸地水面利用指導

一、趣旨　本縣下ニ散在スル溜池池沼等不毛ノ池沼ノ多シト雖モ養魚上之ヲ利用スルモノ極メテ少ク偶々之ヲナスモノアルモ其ノ方法宜シカラザル爲メ充分ナル成績ヲ收ムルヲ得ズ故ニ本場ニアリテハ引續キ粗放的及收約的養魚方法ニ就キ實地指導ヲナシ生産ノ向上ヲ計レリ

二、指導ノ方法　豫メ各郡役所ヲ通ジ希望ノ箇所ヲ調査シ主任技術員ヲ派シテ撰擇地ニ於ケル養魚ノ適否ヲ鑑別シ適當ト認メシ場合ハ養魚地ヲ設計シテ之ガ養成法ヲ指導スルニアリ

三、指導ノ箇所　ヲ示セバ次ノ如シ

長岡郡五台山村　蒲原馬次
同　介良村　西郡醫院
吾川郡長濱村　土佐養魚組合
同　長濱村藻洲潟　林田茂稔
幡多郡下田村竹嶋　片山鶴馬
高岡郡多ノ郷村押岡　小西左金吾

四、成績　養魚事業ハ縣下ニ於テ種苗餌料ノ豐富ナルト共ニ事業ノ性質甚ダ有望ナルヲ以テ之ガ創業ノ希望ヲ有スモノ日ニ增進スルノ現況ナリ

本場指導ノ下ニ造池セル最大ナルモノハ幡多郡下田村竹嶋ニ於テ二町歩ノ養魚池ニシテ大正十二年四月之ガ竣成ヲ見タリ

第三章　養殖適地調査

緒言

本縣ニ於ケル水産業ハ農産、工産ニ次グノ重要産業ニシテ其ノ年産額ハ一千二百萬圓ヲ算ス然レドモ之等ハ漁獲及製造ニ由ルノ價格ニシテ養殖ニ由ルノ生産ハ微々トシテ振ハズ其ノ見ルベキモノノ無キヲ遺憾トスルモノナリ

於此本場ハ大正十年度ヨリ重要魚介藻類ノ中養殖ヲナシ得ベキ沿岸ノ調査ノ目的ヲ以テ大正十一年度ヨリ事業ヲ開始シ同年度ニ於テ高岡郡以西ニ於ケル調査ヲ完了シ本年度ハ高岡郡以東ニ付キ調査ヲ施行セリ

第一節　調査ノ區域

本調査ハ浦戸灣、土佐灣、紀淡海峽ニ面スル各町村ニ付キ之ヲ行ヘリ左ニ調査ノ箇所ヲ示セバ次ノ如シ

安藝郡　甲ノ浦村　野根村　佐喜濱村　津呂村　室戸町　吉良川村　羽根村　安藝町　奈半利町　田野村
伊尾木村　安田村　穴内村　赤野村　和食村　西分村
香美郡　夜須村　岸本町　赤岡町　前濱村

長岡郡　三和村　十市村　三里村　五台山村
吾川郡　浦戸村　長濱村　御疊瀬村

第二節　沿岸流

本縣東部沿岸流ニ就キテノ調査ハ短日月ナリシヲ以テ充分詳ナラザルモ調査ノ結果ヨリ判明シ得タル事項ニ付キ記スレバ左ノ如シ

本縣東部沿岸流ハ黑潮ノ支流及紀伊水道ヲ流下スル沿岸流ニ大別シテ考フルヲ至當トシ潮流ノ影響ヲ被ル事少シ次ニ調査區域ニ於ケル潮流ヲ說明スベシ

黑潮ハ西南ヨリ來リ足摺崎及室戸崎ニ於イテ種々ノ支流ニ分レ季節及天候ニヨリ其ノ沿岸ニ於ケル潮流ノ狀態ヲ種々ニ變化セシムルト雖ドモ大体一貫シタル沿岸流ノ方向潮流ノ狀態ヲ示セリ即チ室戸岬ヲ中心トシ沿岸ハ殆ンド下リ汐（西流）ヲ示シ行道岬ニ黑潮流ノ迫リタル時ノミ其附近上リ汐東流ニ變ズ而シテ行道崎佛崎及唐ノ濱等ノ突出セル岬ニ當リテ右廻ハリノ渦流ヲ形成ス手結岬ニ至リテ東流セル沿岸流現レ赤岡岸本ノ沿岸ニ左リ廻リノ渦流ヲ形成ス

安田村田野村ハ隣接村ナルモ其ノ沿岸ノ潮流ハ正反對ナル事甚ダ多シ

室戸崎ヨリ以東北ノ海岸ニ於テハ冬期ニ於イテハ北上スル潮流多キモ佐喜ノ濱附近ヨリ以南ノ海岸ニ於テハ沖合ノ北上スル塲合ニ必ズ南下スル反流ヲ形成ス

然レドモ夏期ニ於イテハ南下ノ潮流多ク而シ佐喜ノ濱附近ヨリ以南ノ海岸ニハ反リテ北上スル沿岸反流ヲ形成ス

第三節　岩礁地帶

海岸ニ於ケル岩礁地帶ハ淺海利用ニ關シ重大ナル地位ヲ示スモノナリ

而シテ調査區域ニ於ケル暗礁ハ室戸崎ニ於イテハ一里ノ沖合ニ突出スルモ以西ハ概シテ十尋線內ニアリ以東ニ於テモ十

尋線內ニアルモ岬角ノ地ハ十尋線以外ニマデ突出セリ

左ニ岩礁及砂濱ニ於ケル延長線ヲ各町村別ニ示セバ次ノ如シ

	海岸臺	砂濱	計	海岸臺ト砂濱ノ比	海岸臺	砂濱
甲浦	一，三五〇 ″	〇，二〇 ″	二，二〇 ″	一．	〇、三弱	
野根	一，〇九〇 ″	一，二一〇 ″	二，三〇 ″	一．	一、二強	
佐喜濱	一，〇九〇 ″	一，二九〇 ″	三，〇二〇 ″	一．	一、三強	
津呂	二，二七〇 ″	二，〇四〇 ″	四，三一〇 ″	一．	〇、七七弱	
室戸	一，〇六〇 ″	〇，二四〇 ″	一，三〇〇 ″	一．	〇、六弱	
吉良川	〇，三三〇 ″	〇，二六〇 ″	一，二三〇 ″	一．	〇、八弱	
羽根	一，〇五〇 ″	〇，二三〇 ″	一，二八〇 ″	一．	〇、六強	
奈半利	一，〇〇〇 ″	〇，一四〇 ″	一，一四〇 ″	一．	〇、四弱	
田野		〇，二三〇 ″	〇，二三〇 ″	一．		
安田	〇，〇九〇 ″	〇，三〇〇 ″	一，〇三〇 ″	一．		
伊尾木	〇，一三〇 ″	一，〇一〇 ″	一，一四〇 ″	一．	二、九弱	
川北		〇，〇九〇 ″	〇，〇九〇 ″	一．		
安藝		〇，二九〇 ″	〇，二九〇 ″	一．		
穴內		〇，二六〇 ″	〇，二六〇 ″	一．		

赤野	〇、三二	〇、〇二	〇、三四	一、	〇、〇六強	
和食	〇〇	〇、一七	〇、一七	一、		
西分	〇、〇八	〇、一九	〇、二七	一、	三、一強	
夜須	〇、二七	〇、一三	一、〇五	一、	〇、五弱	
岸本	〇、一三	〇、一三	〇、一三	一、		
赤岡	〇、一〇	〇、一〇	〇、一〇	一、		
吉川	〇、三四	〇、三四	〇、三四	一、		
三嶋	〇、一一	〇、一一	〇、一一	一、		
前濱	〇、〇八	〇、〇八	〇、〇八	一、		
三和	〇、二二	〇、二二	〇、二二	一、		
十市	〇、二九	〇、二九	〇、二九	一、		
三里	一、一三	一、一三	二、二六	一、	一、五強	
五台山	〇、二九		〇、二九	一、		
長濱	一、〇六	〇、二三	〇、二九	一、	五、五弱	
御疊瀬	〇、一二		〇、一二	一、		
浦戸	〇、二〇	〇、二三	一、〇七	一、	一、一強	
潮江	一、〇〇		一、〇〇	一、		
總計			三八、二三	一、		

第四節　淺海底棲生物

一、あをのり

あをのりハ其ノ性質上淡水混合度ニ大ナル關係ヲ及スルモノタルハ言ヲ俟タザルモ本調査區域ノ岩礁地帶ノ波打際ハ殆ンド之ヲ見ザルノ所ナキモタダ室戸ノ鼻ニ於イテハ鹹度大ナルヲ以テ分布殆ンド無ク浦戸灣ニ注入スル諸河ノ中國分川長濱川ハ其ノ附着最モ良好ナリ

二、ほんだわら

ほんだわら類ハ之ヲ總稱シテ一般モ「も」ト稱ス本縣ニ分布スルノコノ類屬ハ次ノ五種トス

ほんだわら、よれもと、やつまたもと、あかもと、いそもと而シテ調査區域ニ於ケル繁殖地ハ甲ノ浦、佐喜濱ナルモ一般ニ少量ナリ

三、かじめ

かじめハあらめ或ハめト稱シ重要海藻ノ一ナリシモ年々其ノ産額ヲ減少シ現在ニ於イテハタダ安藝郡佐喜濱ニ少量ノ生産アルノミニシテ其ノ他ハ殆ンド絶滅セリ

四、海　蘿

本縣産ふのりハふくろふのり其ノ主ナルモノニシテ通稱ふのり或ハむぎわらふのりト稱ス

其ノ他ハまふのり、むかでふのりナルモ極メテ少量ナリ

ふくろふのりハ岩礁地帶隨所ニ之ヲ見ルモ室戸ノ鼻ニ於テハ少ク之ヨリ東西ニ分布多シ

五、石花菜

てんぐさ屬ニ於イテハ數種之ヲ産ス其ノ主ナルモノハまぐさ、ひらくさ、ひめてんぐさ、おにぐさニシテ

まぐさハ一般ニ深所ニ多ク他ハ干潮線以下ノ淺所ニ多産ス而シテひらぐさヲさる、おにぐさヲ六角ト稱セリ

而シテてんぐさハ種類ニヨリ其ノ附着ノ深度ヲ異ニセリ室戸崎附近ハてんぐさノ多産スル所ナリコノ土地ニ於ケル附着ト深度トノ關係ヲ示セバ次ノ如シ（附圖第五參照）

種類	附着深度
まぐさ	十尋
けいとざる	五尋
ひらくさ	一尋—五尋
おにくさ	波打際（干潮線以下ノ海面）

右ノ如クおにくさハ最モ岸邊ニアリひらくさ、けいとざる、まくさノ順ニ深度ヲ增シテ沖合ニ附着セリ然レドモ室戸ノ鼻ニ於テハまくさトひらくさハ其ノ位置ヲ轉倒シひらくさハ却ツテまぐさニ比シ沖合ニ分布セリコノ事實ニ就テハ爾後調査スル所アルベシ

（註）けいとざるハ俗名ニシテまぐさノ種類ト認メラルレドモ學名確定セザルヲ以テ俗名ノママ此ヲ記入セリ

介類ノ中あわび類ニ屬スルくろかひ、めかひ、とこぶしニ付イテモ其ノ種類ニヨリ棲息ノ深度ヲ異ニセリ次ニ深度ヲ示セバ次ノ如シ

種類	棲息深度
くろかひ	四尋以上
めかひ	二尋以上
とこぶし	一尋以上

而シテ吾川、高岡及香美郡ノ各郡ハ砂濱多クタダ手結崎ニ赤野ニ多少ノ岩礁地帶ヲ有スルノミナルモ安藝郡ハ大部分岩礁地帶ナルヲ以テ養殖性生物ノ棲息附着場良好ナルノ地少カラズ次ニ調査區域ニ於ケル養殖性生物ノ分布及ビ判明セル平均年產額ヲ示セバ次ノ如シ　凡例（○印分布地×印絶滅ニ近キ所）

生物名／個所	てんぐさ	ふのり	あまのり	あをのり	かじめ	あはび	とこぶし	さざい	かき	淺利	蛤	いせえび
甲ノ浦	一、五〇〇貫	一五〇貫	○	○		一〇〇貫	一〇〇貫	一、五〇〇				
野根	○	○	○	○		○	○	○				○
佐喜濱	五〇〇	○	三〇〇	○	○	二五〇	○	○				○
津呂	一、一〇〇	一、六〇〇	○	○		一、四〇〇	一、八〇〇	二、三〇〇				二、〇〇〇
室戸	七〇〇	五〇	○	○		○	○	○				○
吉良川	二、〇〇〇	一二〇	三〇	○		○	三〇〇	一〇〇				○
羽根	一〇〇	一〇〇	一五〇			三五〇		五〇〇				○
安藝					○							
奈半利	○	○	○	○			○	○				○
田野												
伊尾木	○	○		○					○			
安田										○		
穴内	×								○			

赤野	○																
和食																	
西分	×	×															
夜須	×	×	○	○													
岸本																	
赤岡																	
前濱																	
三和																	
十市																	
三里			○	○													
浦戸																	
長濱				○													
御疊瀬																	
五台山				○													

○以上述ベシ淺海生物ノ各町村ニ於ケル分布地ヲ明記セン

第五節　調査區域ニ於ケル養殖性生物

一、安藝郡

(一)　甲ノ浦村

(イ)　位置　高知縣東端ノ漁村ニシテ金剛碧ヲ以テ德嶋縣ト境シ松下鼻ヲ以テ野根村ニ接ス

(ロ)　沿岸ノ狀況　本村ハ白濱ニ於イテ砂濱ノ沿岸ヲ見ルノミニシテ他ハ屈曲多キ岩礁地帶ニシテ近海ニハ嶋嶼少カラズ

(ハ)　淺海養殖性生物ノ分布

種類	分布	深度
まぐさ	葛嶋外海、赤葉嶋	一尋—八尋
ひらくさ	ノブナダ	干潮線以下
おにくさ	葛嶋外海、ノブナダ、松下鼻	同
ふのり	葛嶋內灣、塚崎、ノブナダ、二子嶋	干滿線間
あまり	葛嶋、二子嶋、ノブナダ	同
あんとくめ	葛嶋內灣、二子嶋	一尋—五尋
くろかひ	赤葉嶋、塚崎、ノブナダ	三尋—十尋
めかひ	同	三尋—十尋
ところぶし	塚崎	一尋—十尋
さざえ	葛嶋、赤葉嶋、外海、ノブナダ、沿岸	同
いせえび	松下鼻、塚崎	同

(二)　野根村

(イ) 位置　東ハ紀淡海峡ニ面シ北ハ甲ノ浦ト隣接シ水尻谷ヲ以テ佐喜濱村ニ接ス

(ロ) 海岸線　延長三里ノ海岸線ヲ有シ松下鼻池間部落ノ岩礁地帶ヲ除クノ外砂濱連續セリ淀カ磯ニ面スル沿岸ハ岩石ノ崩壞点在ス之ヲ刎石ゴロ〳〵石飛石ト稱ス

野根川ノ流失口ハ流勢ノ爲其ノ深度大ナルモ淀カ磯沿岸ハ概シテ淺海ナリ

(ハ) 淺海養殖性生物ノ分布

種類	分布地	生棲深度
まぐさ	松下鼻大浦	六尋—十五尋
ひらくさ	同	三尋—四尋
おにくさ	同	波打際
ふのり	磯全部	同
あまのり	同	同
あをのり	同	同
かじめ	松下鼻野根川高瀞間	一尋—五尋
くろかひ	磯全部	七尋—十尋
めかひ	同	五尋
とこぶし	同	二尋—十尋
さざえ	同	同
いせえび	同	同

(三) 佐喜濱村

(イ) 位置　東ハ紀淡海峡ニ面シ北ハ水尻谷ヲ以テ野根村ト境シ南ハ鹿岡坂ヲ以テ隣村津呂ト接ス

(ロ) 沿岸ノ狀況　佐喜濱港ヲ境トシテ北ハ蜿々タル砂濱連續シ南ハ疊々タル岩礁地帶ヲ形成ス

(ハ) 淺海養殖性生物ノ分布

種類	分布地	生棲深度
てんぐさ	磯全部	二尋—十尋
ひらくさ	同	二尋—五尋
おにくさ	同	波打際
ふのり	同	同
あまのり	港口西	同
あをのり	港口附近	同
かじめ	港口西	一尋—十五尋
くろかひ	同	
めかひ	同	
とこぶし	同	
さざえ	同	
いせえび	同	

(四) 津呂村

(イ) 位置　安藝郡東南端ニ位シ鹿岡坂ヲ以テ佐喜濱ト境シナバエ谷ニ至リ室戸町ニ接ス

(ロ) 海岸線　砂濱ノ地少ク岩礁ノ起伏甚シク瀬海ハ嶮峽ナルヲ以チ海底傾斜モ從ツテ急峻ナリ海岸線ノ延長ハ四里三十一丁ニシテ本縣ニ於ケル第一位トス

(ハ) 淺海養殖性生物ノ分布

種類	分布	生棲深度
てんぐさ	沿岸磯全部	二尋—二十尋
ひらくさ	同	一尋—五尋
おにくさ	同	一尋—二尋
ふのり	同	干滿—線あ
まのり	室戸崎ヲ除ク磯	同
あをのり	同	同
くろかひ	沿岸磯全部	十尋
めかひ	同	十尋
とこぶし	同	二尋—十尋
さざえ	同	四尋
いせえび	同	二尋

(五) 室戸

(イ) 位置　安藝郡東部ニ位シ東ハ上人碆ヲ以テ津呂村ト接シ不動岩ニ至リ吉良川村ト接ス

(ロ) 沿岸ノ狀況　砂濱及岩礁交々連リテ其ノ延長ハ一里二十八町ニシテ底質ハ砂礫相混ジ暗礁ノ地少カラズ

(ハ) 淺海養殖性生物

種名	
てんぐさ	港口以外ノ岩礁
ひらくさ	同
おにくさ	同
ふのり	同
あまのり	同
あわび	同
とこぶし	同
さざえ	同

(六) 吉良川村

(イ) 位置　安藝郡東部ニ位シ東ハ不動岩ヲ以テ室戸ニ境シ西ハ長碆ニ至リ羽根村ニ接ス

(ロ) 沿岸ノ狀況　行道崎ヨリ連續セル岩礁ハ東川ノ流失口ニ至リテ砂濱トナリ長碆ニ至リ再ビ磯点在セリ底質ハ岩石及砂トス

(ハ) 淺海養殖性生物ノ分布

種名	
てんぐさ	磯全部

ふのり　同
あまのり　同
あをのり　同
あんどくめ　同
あわび　同
ところぶし　同
さざえ　同

(七) 羽根村

(イ) 位置　東ハ長碧ヲ以テ吉良川村ニ境シ西ハ大碧ニテ奈半利村ニ接ス

(ロ) 沿岸ノ狀況　羽根崎ニ於テ重疊セル岩礁ノ外刻石ノ處々ニ點在スルノミニシテ西谷ノ沿岸ハ砂濱ニシテ緩漫ナル灣入ヲ示ス

(ハ) 淺海養殖性生物ノ分布

種名	分布
てんぐさ	礫全部
ふのり	同
あまのり	同
かじめ	同
あわび	同

ところぶし　同
さざえ　同

(八) 奈半利村

(イ) 位置　東ハ大碧ヲ以テ羽根村ニ境シ西ハ奈半利川ヲ境界トシテ田野村ニ接ス

(ロ) 沿岸ノ狀況　海岸線ハ大ナル屈曲ヲ見ズ奈半利ヨリ六本松ニ至ル間ハ全ク砂濱ナルモ須川ヨリ岩礁次第ニ發達シ加領郷羽根崎ニ至リ重疊起伏セリ

(ハ) 淺海養殖性生物

種名	分布
てんぐさ	羽根崎川尻間
ふのり	同
あまのり	同
あをのり	同
かじめ	同
あはび	同
ところぶし	同
さざえ	同

(九) 田野村

(イ) 位置　東ハ奈半利川ヲ以テ奈半利ニ接シ西ハ家石ノ里道ヲ限リテ安田村ニ接ス

(ロ) 沿岸ノ狀況　沿岸ハ屈曲ナキ砂濱ニシテ良好海底質ハ砂ニシテ傾斜緩漫ナルヲ以テ良好ナル地曳網漁場タリ

(ハ) 淺海底養殖性生物　前述ノ如ク砂濱ナルヲ以テ養殖性生物ノ分布ナシ

(十) 安田村

(イ) 位置　東ハ家石ノ里道ヲ以テ田野村ニ接ス西ハ中谷川ヲ挾ミテ伊尾木村ニ境ス

(ロ) 沿岸ノ狀況　沿岸ハ砂濱ナルモ海底ニハ大小ノ暗礁點在セリ而シテ安田河ハ稀ニ西流スル事アルモ東流シテ海ニ流入スル事多キヲ以テ安田川以東ニハ牡蠣ノ附着良好ニシテ以西ノ碧ニ生ズルモノニ比シ成長度大ナリ

(十一) 伊尾木村

(イ) 位置　大平洋ニ面シ東ハ中谷川ヲ以テ安田村ト境シ以西ハ伊尾木川ヲ以テ川北村ニ接ス

(ロ) 沿岸ノ狀況　海岸線ハ砂濱多ク露出岩石少キモ海底ハ暗礁少カラズ伊尾木河口ハ極メテ遠淺ニシテ約二十町沖合ニ至リ十尋線ニ達ス而シテ東ニ向フニ從ヒ其ノ深度ヲ增進シ唐ノ濱ニ至リ再ビ減少セリ

(ハ) 淺海養殖性生物　てんぐさ　ふのり　あわび　とこぶし　かき　いせえび

(十二) 安藝町

(イ) 位置　安藝郡有數ノ都邑ニシテ南ハ大平洋ニ面シ東ハ安藝川ヲ以テ川北村ニ境シ新城谷ヲ以テ穴内ニ接ス

(ロ) 沿岸ノ狀況　沿岸ハ砂礫ヲ以テ掩ハレ海底ハ極メテ緩漫ナル傾斜ヲナス二十町ノ沖合ニ至ルマデ暗礁点在ス魚群ハコノ暗礁ニ來集スルヲ以テ年中漁獲ノ止ル事ナシ

(ハ) 淺海底養殖性生物　從來前記ノ暗礁ハかじめノ繁茂盛ンナリシヲ以テ鮑ノ棲息場ナリシモ西、北ノ風强烈ナル折ハ流木來リテ藻類ノ發育ヲ妨グルノ外潮流其ノ他ノ關係ノ爲メ目下ハ全ク絶滅セルノ狀態ナリタダ點々ト牡蠣ノ附着アルノミナリ

(十三) 穴内村

(イ) 位置　南ハ大平洋ニ面シ東ハ安藝町ヲ以テ境シ西ハ赤野村ニ接ス

(ロ) 沿岸ノ狀況　砂礫ノ連續セル海濱ニシテタダ新城ノ鼻ニ多少ノ暗礁ヲ有スルノミ

(ハ) 淺海底養殖性生物　昔時かじめノ着生ヲ見タリシモ現時ハ潮流ノ關係ナルベシ全ク之ヲ見ズダダ石灰藻ノ瀰漫セルノ少量ノほんだわら、あみじぐさノ着生ヲ見ルノミナリ時宛モ磯燒時期ナリシヲ以テ藻類ニ付充分ノ調査ヲナシ得ザリシハ遺憾ナリキ次ニ養殖性生物ニ付擧グレバ次ノ如シ

種名	分布	摘要
てんぐさ	新城ノ鼻	
かじめ		大正七年ヨリ皆無トナレリ
あはび		大正元年ヨリ皆無トナレリ亂獲ノ結果ナラン
とこぶし		年ヲ經ルニ從ヒ生產減少ス
さざえ	磯	
かき	新城附近	
いせえび	磯	

(十四) 赤野村

(イ) 位置　南ハ大平洋ニ面シ東ハ穴内村ニ接シ西ハ和食村ト境セリ

(ロ) 沿岸ノ狀況　沿岸ハ砂濱ニシテ海底ハ極メテ緩漫ナル傾斜ヲナスモ暗礁點在シテ魚群此處ニ來集ス石灰藻瀰漫セリ

(ハ) 淺海養殖性生物

種名	分布
てんぐさ	御殿場
かじめ	赤野川流出口—山田間
かき	御殿場西

(十五) 和食村

(イ) 位置　大平洋ニ面スル小村ニシテ東ハ笠野村ニ接シ西ハ和食川ヲ以テ西分村ニ隣接ス

(ロ) 沿岸ノ狀況　赤野村ト連續セル砂濱ナルヲ以テ全ク同一ノ狀態ヲ保持シ海底極メテ緩漫ナル傾斜ヲナス岩礁地帶皆無ナリ從テ養殖性生物ノ棲息ヲ見ズ

(十六) 西分村

(イ) 位置　安藝郡西端ニアリ堀切川ヲ以テ和食村ト境シ西ハ住吉ノ鼻ヲ以テ香美郡夜須村ニ接ス

(ロ) 沿岸ノ狀況　住吉ノ鼻ニ於テ岩礁地帶ヲ有スルノミニシテ他ハ礫砂ノ海岸ナルヲ以テ淺海養殖性生物ノ棲息面積殆ンドナシ

二　香美郡

(一) 夜須村

(イ) 位置　香美郡ノ東端ニ位シ東ハ住吉ノ鼻ニテ西分ニ接シ西ハ岸本町ニ境ス

(ロ) 沿岸ノ狀況　西部ヨリ連續セル砂濱ハ手結港ニテ止リ以東ハ丘陵起伏屈曲多シ砂濱ノ海底ハ傾斜緩漫ニシテ底質ハ泥砂ナルモ手結以東ノ海底ハ暗礁地帶ナリ

(ハ) 淺海養殖性生物　沿岸ハ純然タル砂濱ナルヲ以テ養殖的生物ノ棲息ヲ見ザルモ手結ノ砂濱海底ハ泥砂ナルト共ニ傾斜極メテ緩漫ナルヲ以テ介類ノ棲息ノ可能性ヲ有スルモ比重過大ニ失スルノ嫌アリ大手結埼龍宮埼ノ暗礁地帶ハ十年前ハ天草、海藻、かじめノ棲息ヲ見タリシモ以來全ク絶滅ノ狀態ニ陷レリ其ノ原因ハ十年前手結山ニ鑛山業ノ開始セラレタル經歷アルガ爲流失セラレタル鑛毒ニ影響セラレタルモノナリトノ推測セラルルモコハ潮流ノ關係ニアルモノナラン

(二) 岸本町、赤岡町及前濱村

(イ) 位置　隣接セル町村ニシテ南ハ土佐灣ニ面ス東ハ夜須ニ接シ前濱ニ於テ長岡郡ト境ス

(ロ) 沿岸ノ狀況　各沿岸ハ共ニ砂濱ノ長汀ニシテ海底傾斜極メテ緩漫ナリ

三、浦戸灣

(イ) 位置　浦戸灣ハ土佐海ノ中央ニ位シ高知市、吾川郡、長岡郡、土佐郡ニ接ス

(ロ) 內灣及沿岸ノ狀況　浦戸港ハ本縣唯一ノ漁港ナルモ其ノ他ノ產業上至大ノ關係ヲ有ス水深平均十五尺干滿ノ差三尺乃至六尺ニシテ干潮時淺キハ二尺深キハ十尋ニ達ス

比重ハ滿潮時一、〇二五ナルヲ以テ外海ヨリ小ナルモ干潮時ハ流出セラルル河水ノ影響ヲ受ケ大ナル差ヲ生ズ水溫モ外海ニ比シ小ナリ

底質ハ砂泥ナルモ塲所ニヨリ之等ノ配合ノ狀態ヲ異ニセリ卽浦戸口及其ノ沿岸ハ砂質ニシテ長濱村、諸本、仁井田、ヒヨケ沿岸ハ砂泥質ナルモ長濱川流出口其ノ他ハ泥質多ククルス島附近ハ全ク泥砂ナリ

(ハ) 海底生物　海底生物ハ藻類及介類ニシテ藻類ニ於テハあをのりヲ主ナルモノトシあまのり多少分布セリあをのりハ沿岸全部之ヲ見ザルハナキモ殊ニ長濱川國分川ヲ最良ナリトス

介類ニ於テハ仁井田ノ東ニ於テハ仁井田ノ東ニ蛤棲息セシ事アルモ目下絶滅セリ横介ハ瀬戸クルス島附近及仁井田瀬海ニ多少棲息セリ仁井田ハカキノ附着スルノ可能性ヲ有スルモ附着材料ナキ爲其ノ收獲ヲ見ズ

第七節　結　論

一、淺海生物ト沿岸　以上調査ノ結果本縣沿岸ハ磯付生物ノ生棲附着地タル海岸臺ノ少カラザルハ淺海底生物ノ蕃殖上有望ナリト雖モ怒濤ノ爲沿岸ハ常ニ侵蝕セラルルヲ以テ海岸臺ノ急設ナルヲ免ガレザルナリ之ガ爲メ磯ノ延長ノ大ナルニ比シ其ノ生棲附着ノ面積ニ於テハ狹小ナリ

二、地質　地質ハ沿岸地質ヲ大別シテ砂濱及海岸臺トスルヲ得而シテコノ海岸臺ヲ形成スル岩質ヲ見ルニ粘板岩隨所ニ露出セリ海藻ノ附着ハ第三紀層砂岩ヲ以テ最適トスルモ前述ノ如ク粘板岩甚ダ多キヲ以テ海藻ノ附着面積モ之ガ爲削磨セラルルヲ免レザルナリ

三、水温比重　沿岸ハ直接暖流ノ影響ヲ受クル事至大ナルヲ以テ水温比重共ニ高度ヲ示ス抑モ海藻類ハ水温ノ小ナルヲ以テ其ノ成長良好ナリ本縣海藻類ノ總テガ矮小ナルハコノ水温ニ關係スルモノナルベシ次ニ調査區域ニ於ケル淺海重要生物ノ適地及ビ面積ヲ示セバ次ノ如シ

有要海藻類適地表

種名	適地	所屬地	適地面積(坪)	適地面積(坪)	適地面積(坪)	適地面積(坪)	適地面積(坪)	適地面積(坪)	適地面積(坪)
		甲ノ浦村	野根村	佐喜濱村	津呂村	室戸村	吉良川村	羽根村	奈半利村
									浦戸港
てんぐさ							杉ヶ崎 長磐間	大石 羽根崎間	羽根崎
							四、〇〇〇	三〇、〇〇〇	一五、〇〇〇

有要介類適地表

種名	適地	所屬地	適地面積(坪)	適地面積(坪)	適地面積(坪)	適地面積(坪)	適地面積(坪)	適地面積(坪)	適地面積(坪)
		甲ノ浦町	野根村	佐喜濱村	津呂村	室戸町	吉良川村	羽根村	奈半利町
まぐさ	葛嶋外海	三、〇〇〇	松下鼻	三三、〇〇〇	尾崎	三三、〇〇〇	六ケ谷	一五、〇〇〇	行道崎
					鹿岡坂	一〇、〇〇〇	上コバエ 横ザコ間	一〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇
ひらくさ	松下鼻	二、〇〇〇	松下鼻		尾崎 鹿岡坂				行道崎
おにくさ	葛嶋内灣	三、〇〇〇	松下鼻						
	ノブナダ	二五、〇〇〇			都呂	八〇、〇〇〇	夫婦岩	一五、〇〇〇	行道崎
ふのり	葛嶋内灣	三、〇〇〇	松下鼻	三、〇〇〇	都呂	一〇、〇〇〇	六ケ谷	八、〇〇〇	行道崎
	塚崎	三、〇〇〇					丸山	一五、〇〇〇	二、〇〇〇
	ノブナダ	四、〇〇〇					阪本港 附近	六、〇〇〇	立石
あまのり	葛嶋内灣	一、〇〇〇	松ド鼻	三、〇〇〇	都呂	三、〇〇〇	丸山	八、〇〇〇	杉ヶ崎
	ノブナダ	一、〇〇〇	野根川	三、〇〇〇	尾崎	四、〇〇〇	六ケ谷	三、〇〇〇	石崎
							阪本港	一、五〇〇	四、〇〇〇
あをのり			松下鼻 野根川間	三、〇〇〇	都呂 尾崎	三、〇〇〇	水尻	一、五〇〇	行道崎
									一、〇〇〇
									東川附近
									一、五〇〇
									室津川尻
									一、〇〇〇
									行道崎
									三、〇〇〇
									黒嶋
									羽根川間
									三、五〇〇
									奥岩
									七、〇〇〇
									長濱川 國分川

種名	適地	所屬地	適地面積(坪)	適地面積(坪)	適地面積(坪)	適地面積(坪)	適地面積(坪)	適地面積(坪)	適地面積(坪)
		甲ノ浦町	野根村	佐喜濱村	津呂村	室戸町	吉良川村	羽根村	奈半利町
ささえ	葛嶋 赤葉嶋外海		野根川以南	都呂 尾崎間	六ケ谷 上コバエ 市ノ瀬間	行道崎	立石	黒耳 羽根川瀬間	大石附近
とこぶし	塚崎		野根川以南	都呂 尾崎間	六ケ谷 上コバエ 市ノ瀬間	行道崎	黒耳	大石 羽根崎間	加領郷以西
あわび	赤羽嶋 ノブナダ 塚崎		松下鼻	都呂	六ケ谷 上コバエ 市ノ瀬間	行道崎	黒耳	大石 羽根崎間	加領郷以東

いせえび

ノブナダ
松
塚
下
鼻
崎

松下鼻

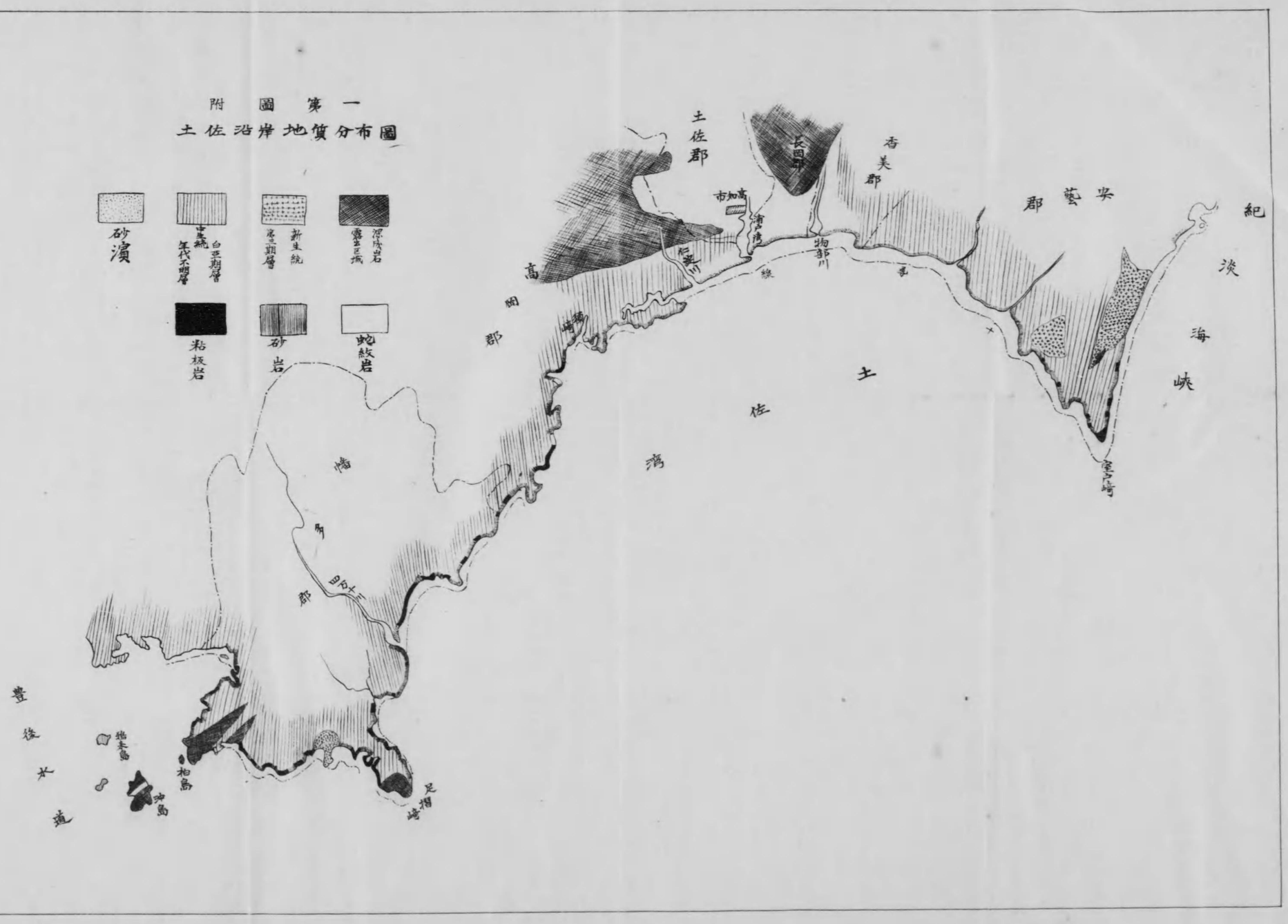
尾崎

六ケ谷
市
上コバ
高エ
磐
間

行
通
崎

附圖第一

土佐沿岸地質分布圖

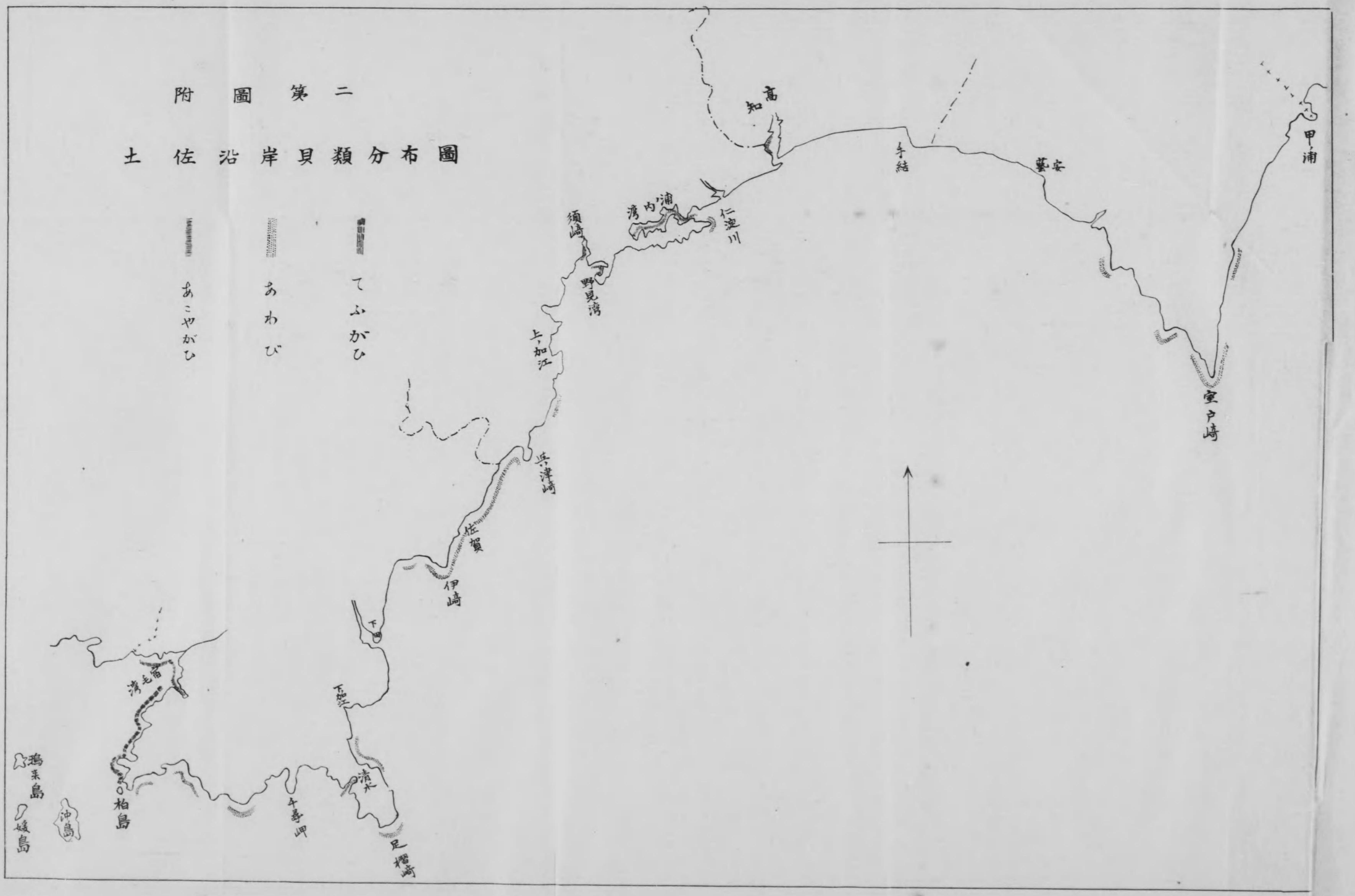


附圖第一

土佐沿岸地質分布圖

附圖第二

土佐沿岸貝類分布圖



三葉
圖布分藻海岸沿佐土
附圖
かぢめ
あんどこめ
ふのり
てんぐさ
甲浦
室戸崎
高知市
須崎
下田
足摺岬
沖島

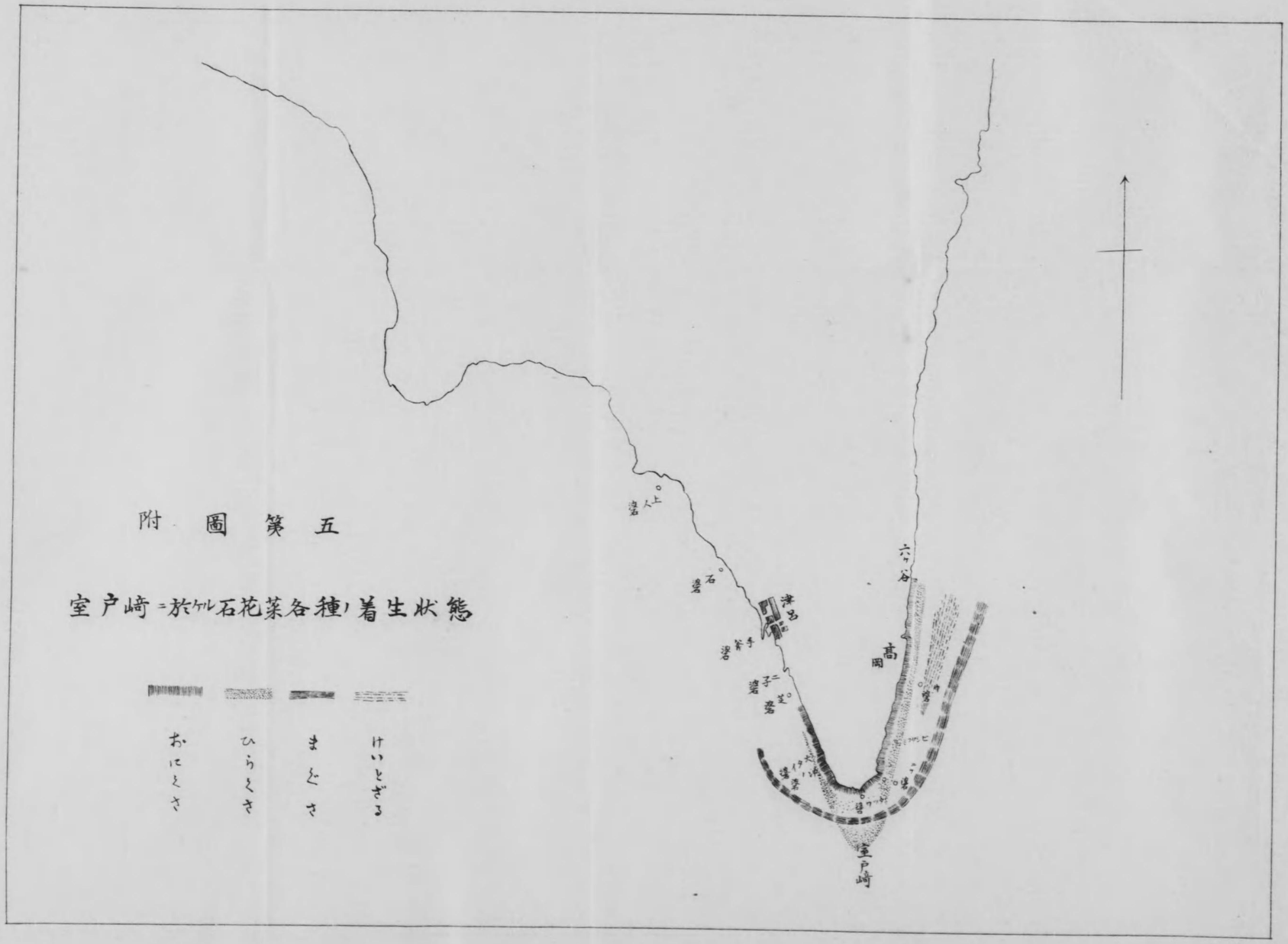
附圖第四

土佐東部沿岸ニ於ケル

十尋線ト石花菜着生深度ノ關係

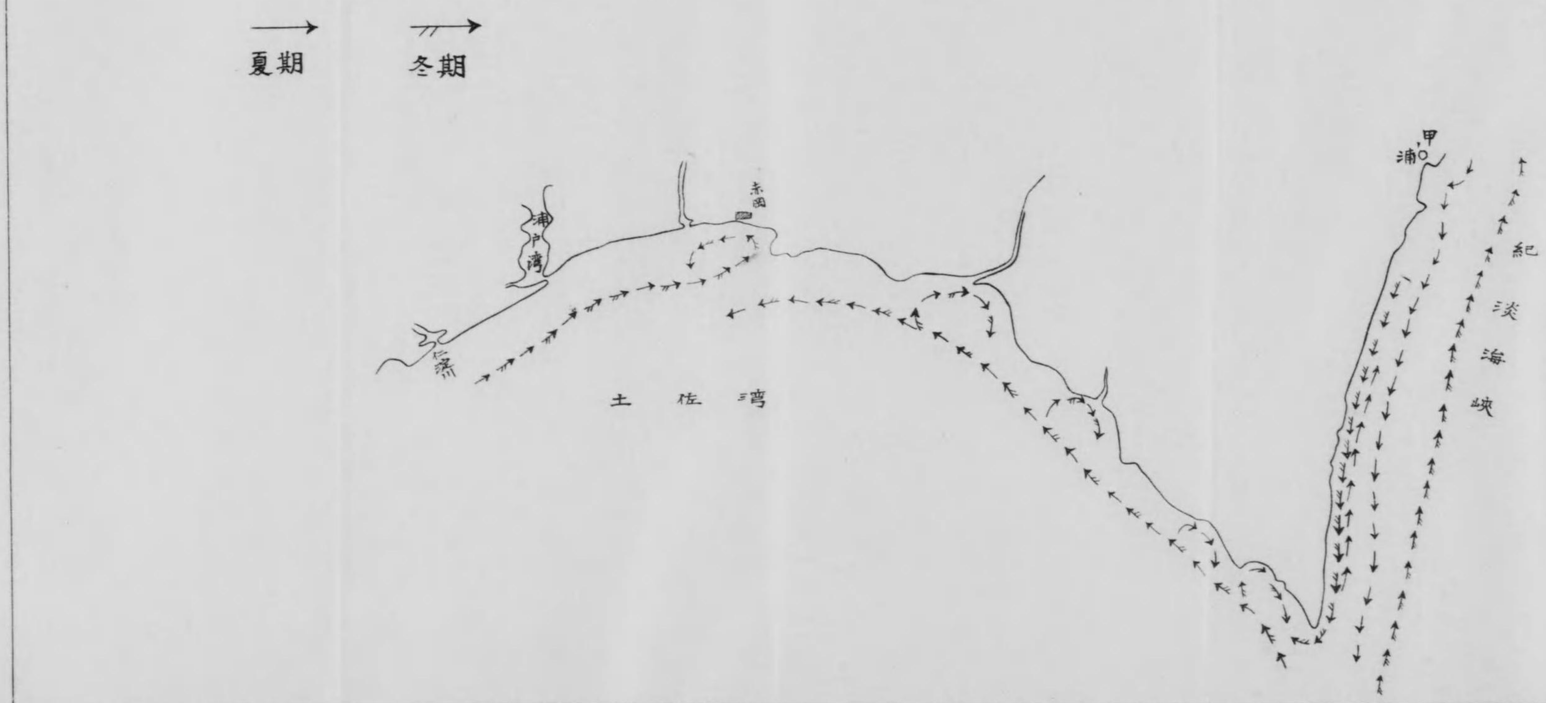
十尋線

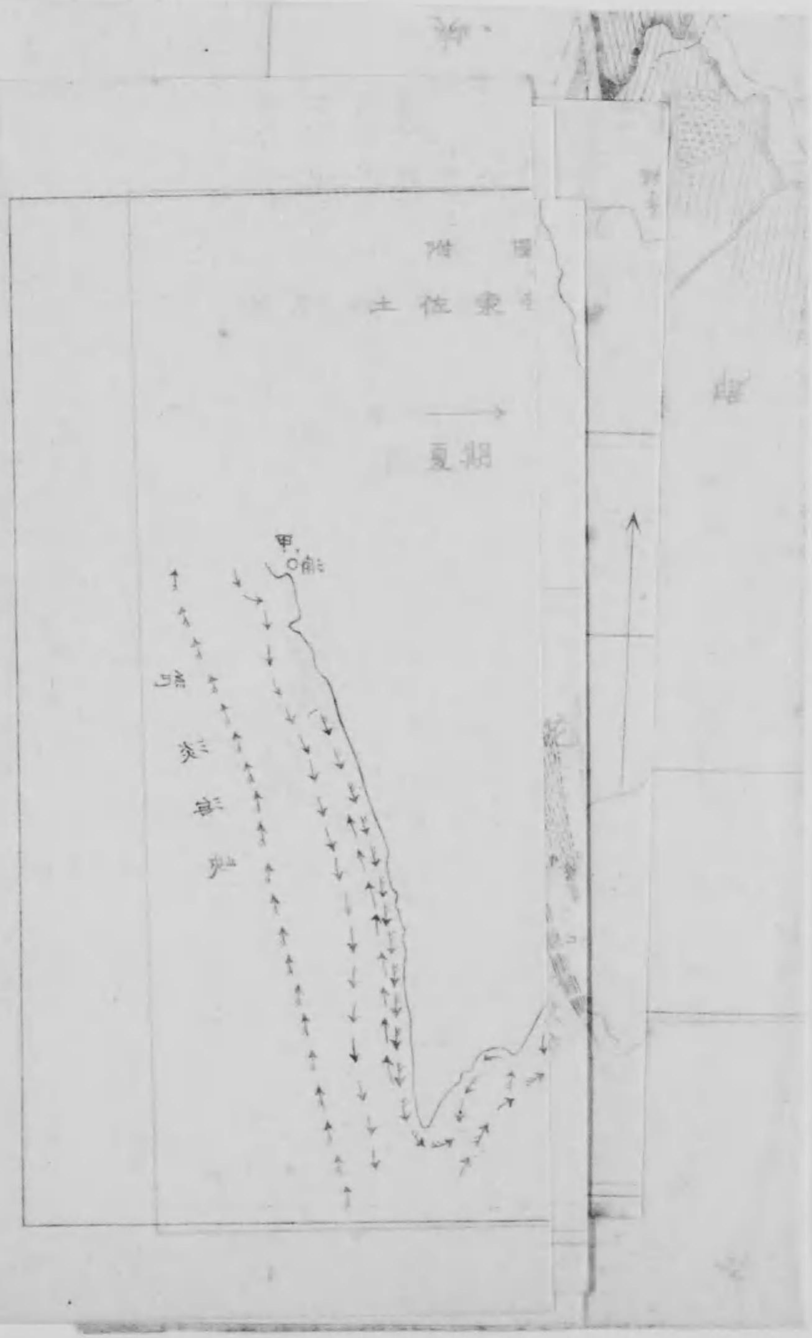
石花菜繁殖地帶


附圖第五
室戸崎ニ於ケル石花菜各種ノ着生狀態
けいとぎる
まゝさ
ひらゝさ
おにゝさ
上人ノ磯
石磯
津呂
手茶磯
子二磯
芝磯
高岡
六ヶ谷
室戸崎

附圖第六

土佐東部沿岸海流圖





第四章　石花菜移殖試驗

一、趣旨　本縣產石花菜ハ品質不良ニシテ、之レガ蕃殖ヲ圖リ生產ノ增加ヲ致サントスルモ藻体矮小ニシテ其ノ成績比較的顯著ナラズ、故ニ優良ナル種類ヲ移殖シテ徹底的ニ其ノ蕃殖ヲ圖リ品種ノ改良ヲナサントスルモノニシテ先ヅ其成績ヲ明ナラシメンガ爲本試驗ヲ施行セリ

二、場所　安藝郡吉良川村沿革

三、期間　自大正十一年六月二日至同年同月九日

四、方法　移殖用ノ種藻ハ三重縣度會郡宿田曾村田曾浦漁業組合地先產ノおほぶさ（Geridium Pabcaieum.）ニシテ、運搬中モ海水中ニ在ラシムルヲ必要トスルヲ以テ本場沿岸漁業試驗船耕洋丸ヲ廻航シ其ノ活魚槽中ニ收容シテ運搬セリ、移殖ハ水產講習所技師理學博士岡村金太郎氏發見ノ方法ニ從テ種藻ヲ棕梠繩ニ挾ミ石ニ卷キ付ケテ試驗地內ニ投入スルト同時ニてんぐさ發生ニ良好ナラシムル樣試驗區域內ハ磯掃除ヲナセリ

五、經過

種藻採集　種藻ノ採集地タル田曾浦漁業組合地先沿革ニ於ケルてんぐさノ種類ハおほぶさ及ひらくさノ二種類ナリ六月五日及六日ノ兩日潛水器ヲ使用シテ採集シタルてんぐさ中おほぶさノミヲ撰別シテ鰮蕃養ニ使用スル籠ニ收メテ海中ニ浸シ之レヲ移殖用ノ種藻トセリ其ノ數量ハ七十一貫ニシテ採集開始ヨリ運搬スルニ至ルマデノ時間ハ三十二時間ナリ

運搬　運搬中種藻ハ活魚槽中ニ收容セリ、運搬距離ハ百八十二浬强其ノ所要時間ハ二十八時間ニシテ六日午後六時出

帆七日午後十時移殖地ニ到着セリ

移殖　種藻、試驗地ニ到着約十二時間後再ビ前記籠ニ移シ移殖ハ九日午前八時開始午後五時終了セリ種藻採集アリ移殖終了マデニ要セル時間ハ四晝夜ト九時間ナリ

吉良川村沿岸もうゞト稱スル地先ハ海底ノ傾斜比較的緩ニシテ地質モ又白亞紀頁石流ノ砂岩ニ富ムヲ以テ石花菜ノ蕃殖ニ最モ適當ノ場所ナリ

礫播除ヲ施行セル區域ハ五万坪ニシテ種藻ヲ卷キ付ケタル石ノ數量ハ一千百十三個、てんぐさ附着ノ儘採集地ヨリ持チ來リタル石四十余個ハ共ニ之レヲ試驗區域中ニ投入セリ

種藻採集地ト移殖試驗地ニ於ケル海水ノ狀態　種藻採集セル個所ノ水深ハ九尋内外ニシテ六月六日午前十時ニ於ケル水温ハ表面ニ於テ二十度七分海底ニ於テ十九度六分ナリ比重ハ表面一、〇二三八二海底一、〇二五七五ナリ

移殖試驗地ノ水深ハ四尋乃至十尋ニシテ六月八日ニ於ケル其ノ水温ハ表面二一度二分海底二十一度五分比重ハ表面一、〇二五二四、海底一、〇二五七八ナリ

水温ニ於テ兩者ノ差異ハ表面〇、五度海底一度九分比重ハ表面〇、〇〇一四二海底〇、〇〇〇三ナリ、水温及比重ノ兩者ニ於ケル差異前記ノ如ク小ナルヲ以テ移殖後ニ於ケル石花菜ノ生活ニハ殆ンド障害ヲ與ウルコト無キモノト認メラル

運搬幷ニ蓄養中ニ於ケル水温及比重ノ變化　水温ノ最モ高キハ六月九日午前九時吉良川村沿岸ニ於テ蓄養籠内ニ於ケル二十三度四分ニシテ最モ底キハ六月七日午前五時紀州大島附近航行中活魚槽内ノ二十度八分ナリトス

比重ノ最大ハ六月七日午前八時室戸埼附近航行中ニ於ケル活魚槽中ノ一、〇二五九ニシテ最小ハ六月六日午後五時田曾浦漁業組合地先ニ蓄養セル際ノ一、〇二四七〇ナリトス、水温高低ノ差ハ二度六分ニシテ比重多少ノ差ハ〇、〇〇一二二ナリ

六、移殖ノ結果

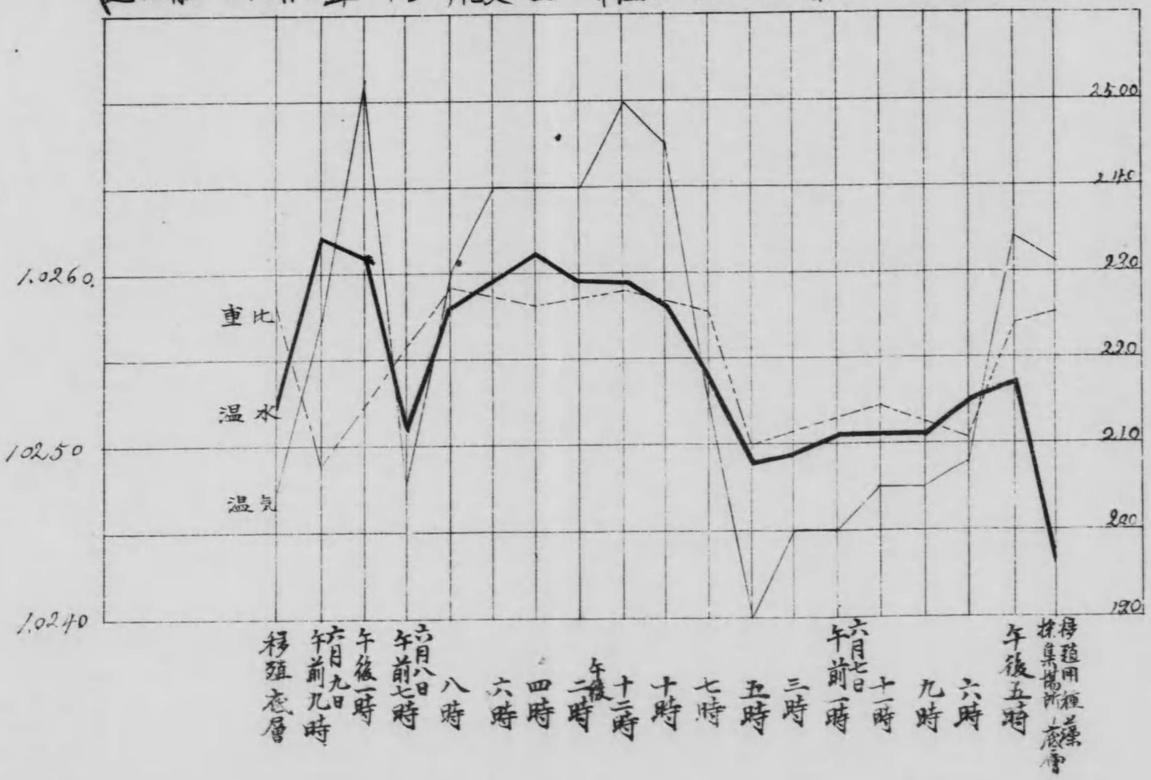
移殖ノ結果ニ就イテハ大正十一年九月十七日之ヲ調査セリ即移殖後三月ヲ經過セル狀況ニ付キ述ベンニ移殖後一週間ニシテ稀有ノ暴風ニ遭遇シ爲ニ移殖セル石花菜ノ中棕梠繩ニ挿入セルモノノ中廿五貫ハ漂流或ハ深着シタルモ岩附ノ儘ナル移殖藻ハ何等ノ被害モナク依然トシテ棕梠繩ニ挿入セル流失ノ殘部ト共ニ殘存シ胞子ヲ散布シテ繁殖ノ増大ヲ期待セルモ日數ノ經過短日月ナルヲ以テ委細ノ結果ハ再調査ヲシテ以テ報告スル所アルベシ

石花菜移殖試驗中水温比重觀測表　（大正十一年自六月六日至六月九日）

時間	氣温	水温 表面	水温 底層	比重 表面	比重 底層	場所	摘要
六月六日午前十時	二三、一	二〇、七	一九、六	一、〇二三八二	一、〇二五七五	石花菜採集地	宿田曾村沿岸水深九尋
仝日　午後五時	二三、四	二一、七		一、〇二四七〇		蓄養籠	宿田曾村沿岸
仝日　仝　六時	二〇、八	二一、五		一、〇二五〇二		耕洋丸活魚槽	宿田曾村出發
仝日　仝　九時	二〇、五	二一、一				仝	伊勢沿岸
仝日　仝十一時	二〇、五	二一、一		一、〇二五二二		仝	
仝月七日仝　一時	二〇、〇	二一、一				仝	
仝日　仝　三時	二〇、〇	二〇、九				仝	
仝日　仝　五時	一九、〇	二〇、八		一、〇二五〇二		仝	紀州大島沿岸
仝日　仝　七時	二一、五	二一、八		一、〇二五七八		仝	

仝日	仝 十時	二四、五	二二、六			仝
仝日	仝十二時	二五、〇	二二、九		一、〇二五九〇	仝 紀伊水道
仝日	仝 二時	二四、〇	二二、九			仝
仝日	仝 四時	二四、〇	二二、二		一、〇二五八二	仝
仝日	仝 六時	二四、〇	二二、九			仝
仝日	仝 八時	二三、〇	二二、六		一、〇二五七二	仝
六月八日午前七時		二〇、六	二二、二	二二、五	一、〇二五二四	仝 室戸崎附近
仝日	午後一時	二五、二	二二、二		一、〇二五四二	仝 吉良川村沿岸
六月九日午前九時		二二、二	二二、四		一、〇二四九二	仝 耕洋丸ヨリ移シテ養セル際
					一、〇二五六八	石花菜移殖試驗地 石花菜移殖試驗際
						仝 蓄養籠

石花菜移殖試驗際藻類周囲ノ水ノ比重並ニ温度ノ変化（大正十一年六月六日ヨリ左ノ九月迄）



六月八日午前七時	二三、〇	二三、六	一、〇二五七	一、〇三五六	仝
仝日 午後一時	二〇、六	二一、二	一、〇二五二四		石花菜移殖試驗地
六月九日午前九時	二五、二	二二、二	一、〇二五四二		蓄養籠
	二二、二	二三、四	一、〇二四九二		仝

室戸崎附近
吉良川村沿岸
水深八尋
耕洋丸ヨリ移シテ蓄養セル際
石花菜移殖試驗際

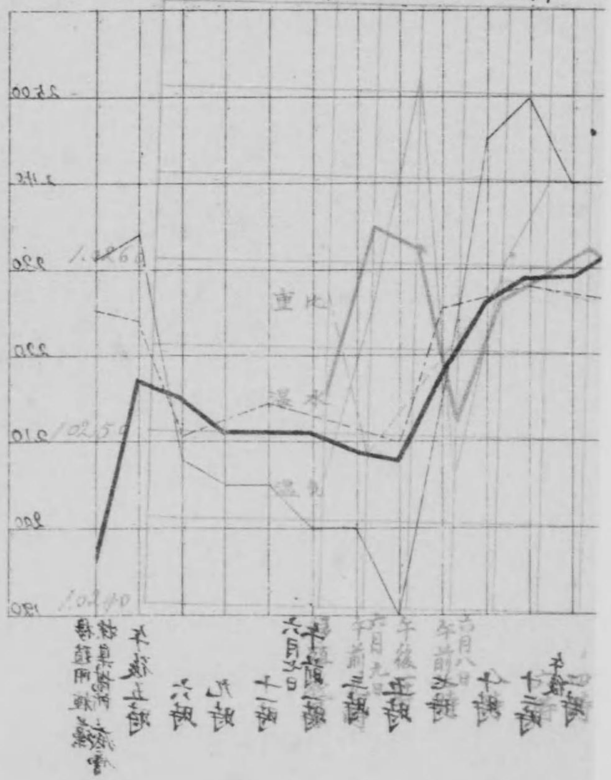
1421
96

大正十三年十月十八日印刷
大正十三年十月廿四日發行

高知縣水產試驗場

高知市本町筋百八十二番地
印刷人　野町傳次

高知市水通町百七十五番屋敷
印刷所　野町印刷所



終